

参 考 资 料

その他の文化財一覧表

種 別	文 化 財 名	所 在 地 等	ページ
建造物	大宮八幡宮神門	大南(大宮八幡宮)	91
建造物	西願寺	大南(西願寺)	91
石造美術	常夜灯	麻生(理正院)・重光	92
石造美術	千里五輪塔	川登千里	92
石造美術	砥部地四国八十八ヶ所石仏	町内	93
石造美術	七折地藏尊	七折	93
石造美術	役行者岩窟座石像	五本松(常盤木神社)	94
石造美術	大宮八幡宮注連石	大南(大宮八幡宮)	94
石造美術	岩鼻五輪塔	総津川口	95
石造美術	伊雑神社神名石	満穂	95
絵 画	豊峰山細見之図	総津川口	96
絵 画	十三仏画像	麻生(理正院)	96
絵 画	涅槃画像	麻生(理正院)	97
絵 画	日光・月光菩薩立画像	麻生(理正院)	97
絵 画	大般若守護十六善神画像	麻生(理正院)	98
彫 刻	金剛羅漢立像	八倉(八倉集会所)	98
彫 刻	弘法大師坐像	八倉(八倉集会所)	99
彫 刻	不動明王像	高尾田	99
古文書	大角蔵・七折・川井・宮内・千足の古文書	宮内(中央公民館)	100
古文書	日野家文書	大南(砥部焼伝統産業会館)・西予市(愛媛県歴史文化博物館)	100
民俗文化財	人形頭	宮内(中央公民館)	101
民俗文化財	俳額	宮内(宮内天満宮)	101
民俗文化財	獅子舞	岩谷口・宮内・高市・総津	102
民俗文化財	虫送り祈祷	川登	102
民俗文化財	大般若供養	原町	103
民俗文化財	鬼の金剛	総津・多居谷・高市	103
民俗文化財	絵馬(総森三島神社・金毘羅神社・多居谷三島神社・玉森三島神社・伊雑神社・中野川天満神社・宇佐八幡宮・お堂(川口)・日倉天神宮・高森三島神社)	総津・多居谷・玉谷・篠谷・高市	122
史 跡	赤坂泉	重光	104
史 跡	懸樋跡	八倉	104
史 跡	川登陶石発見の地	川登	105
史 跡	田中権内の墓碑	宮内(宮内墓地)	105
史 跡	井上奎兵衛の墓	宮内(宮内墓地)	106
史 跡	五三の墓	五本松	106
史 跡	北川毛窯跡	北川毛	107
史 跡	広田最古の坑口	仙波	107

種 別	文 化 財 名	所 在 地 等	ページ
史 跡	三所権現	玉谷	108
史 跡	陶石	玉谷	108
名 勝	銚子滝	川登	109
名 勝	仙波ヶ嶽	仙波	109
天然記念物	槇の木	麻生(理正院)	110
天然記念物	蘇鉄の群生	麻生(三島神社)	110
天然記念物	万年柿(カキノキ)	万年	111
天然記念物	理正院境内の樹叢	麻生(理正院)	111
天然記念物	古岩屋の樹叢	岩谷(岩谷山)	112
天然記念物	楊梅の木	宮内	112
天然記念物	多居谷のエノキ	多居谷	113
天然記念物	多居谷のサザンカ	多居谷	113
天然記念物	大平のムクノキ	大平(大平集会所)	114
埋蔵文化財包蔵地	千人塚	総津	114
埋蔵文化財包蔵地	立花城跡	総津	115

俳句碑・道標一覧表

俳句碑一覧表（砥部）

	碑文	俳人名	所在地	設置年月日
1	石鎚も師の句碑もよし菊日和	一貴	高尾田 個人宅	昭和29年
2	去りゆけど忘れがたしや藪椿	きくえ	立野 立野のお宮境内	昭和62年6月
3	山峡に陶房百戸鵬日和	島人	麻生 金毘羅山公園	昭和63年3月
4	瑞兆を見せて初日ののぼりけり	春暁樓	高尾田 個人宅	昭和50年5月1日
5	陶祖碑に立てば一望砥部小春	如雲	大南 陶祖ヶ丘	昭和60年3月
6	みはるかす心ゆたかに毛見をへて	清風	川井 個人宅	昭和28年
7	杜宇鳴くや江の空涵す水	石山	八倉 八倉公民館	昭和31年4月8日
8	苗札に従ふごとく萌え出でぬ	蘇青子	麻生 麻生小学校	昭和27年4月27日
9	山に雲見馴れしものに露すずし	猛	拾町 個人宅	不詳
10	五月雨の小降りとなりて続きけり	天洋	大南 個人宅	昭和34年2月
11	還暦の春や明治の生れなる	〃	〃	昭和43年10月23日
12	あの山越えゆるば土佐よ雲の峰	〃	障子山林道	昭和27年
13	軒を出て気づかぬほどの秋時雨	年尾	拾町 個人宅	昭和37年
14	密柑山より指呼にして密柑山	敏郎	麻生 金毘羅山公園	昭和63年3月
15	如月のあはれ尋ねよ法の道	兵右衛門	八倉 八倉公民館庭	昭和47年4月23日
16	春雨や松の中なる松の苗	風生	高尾田 個人宅	昭和28年5月9日
17	道ばたに大森彦七曼珠沙華	〃	宮内 大森彦七供養塔横	昭和50年10月19日
18	このまるるまま手作の豆の飯	豫士	拾町 個人宅	昭和35年5月
19	藻の花や汚れて育つ田舎の子	蘭舟	高尾田 個人宅	昭和61年

俳句碑一覧表（広田）

	碑文	俳人名	所在地	設置年月日
20	名月や龍鱗あらき庭の松	不可止	高市 個人宅	
21	白菖蒲凜然として照り映ゆる	〃	谷の橋	
22	御神樹にすがりて高し藤の花	〃	〃	
23	螢火の草に沈むを拾ひけり	〃	高市橋	
24	岩山に神を鎮めて紅葉濃し	〃	中野川 豊峰神社入口	
25	石斛や岩膚洗ひ霧ながれ	〃	仙波 仙波溪谷	
26	<small>ほととぎす</small> 郭公橋におふ月夜かな	樵柯	満穂 上尾峠	昭和59年4月

道標一覧表

	碑 文	所 在 地	設置年月日
1	左 古岩谷山 右 大平久万町へ四里	岩谷 旧大平道と古岩谷の岐路	大正11年1月
2	左 古岩谷山ㄨ五丁 右 廣田村総津ㄨ四里	〃 個人宅前、岩谷入口	大正11年1月
3	右 砥部町 左 久万道	大南 梅野精陶所内 (前所在地砥部町宮内)	昭和10年3月
4	右 砥部道 左 久万道	宮内 供養堂	明治22年2月
5	右 谷上山 施主 客本八太郎 左 カラ川 客本チヨ 客本ダイ	大角蔵	大正3年2月1日
6	左 七折道	七折	不詳
7	久万近道	高尾田 児童館前	大正2年
8	金毘羅道	麻生 麻生共選	大正7年3月

広田の絵馬

総森三島神社（総津）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	日本神話 (神武天皇の東征か)	大正7 (1918)年	940× 1550	川岸に、神武天皇らしき人物と家来が佇んでおり、飛んでいく鳥を見つめているように描かれている。神武天皇の東征時に先導したと伝えられる八咫鳥を意図したのではないかと思われる。
2	馬	昭和49 (1974)年	1100× 1790	
3	橋上の俵藤太 (たわらとうた) と大蛇	明治16 (1883)年	1270× 1915	俵藤太は平安時代の東国の武将。平将門を討った武将として名高い。また、近江国瀬田の湖の竜神の頼みで、三上山の大百足を討ったという伝説がある。本図は、この伝説から題材をとっており、藤太が橋上で弓をつがえる様子を描いている。
4	賤ヶ岳の七本槍	明治24 (1891)年	1070× 1800	賤ヶ岳の合戦とは、織田信長の後継者をめぐって羽柴秀吉と柴田勝家の間で起こった合戦である。秀吉の部下、賤ヶ岳の七本槍の活躍などの逸話で親しまれ、絵馬にもしばしば描かれる題材である。
5	賤ヶ岳の合戦の 羽柴秀吉と 佐久間玄蕃か	明治24 (1891)年	1070× 1650	賤ヶ岳の合戦での、佐久間玄蕃(勝家方の武将。秀吉方に奇襲を仕掛けて戦鬨の口火を切るも、勝家の命に背いて兵を退かず、秀吉と対戦して捕らえられた)と羽柴秀吉を描く。
6	酒吞童子	明治24 (1891)年	790× 1200	「大江山の鬼退治」の一場面。源頼光らが山伏姿に変装して、酒吞童子のもとを訪れ、もてなしを受けている場面が描かれている。ひととき大きく描かれている酒吞童子の周囲には、家来の鬼やさらわれてきた女性達がいる。
7	関東大震災を 視察する摂政宮 (昭和天皇)	大正13 (1924)年	920× 1400	大正12年9月1日に起こった関東大震災は多くの被害をもたらした。摂政宮(昭和天皇)は、9月15日に被害状況を視察しており、絵馬に描かれているように乗馬姿での視察の様子を写した写真が残っている。
8	ひらがな盛衰記 四段目 無間の鐘	明治24 (1891)年 か	1085× 1420	浄瑠璃「ひらがな盛衰記」の四段目「無間の鐘」の登場人物・梶原源太、千鳥を描く。「ひらがな盛衰記」は、『平家物語』『源平盛衰記』等を題材とした浄瑠璃の代表的作品の一つ。木曾義仲とその遺児・遺臣の物語を中心に、梶原源太をめぐる逸話をとりあわせたもの。
9	芝居絵馬 (二人の武将図)	明治24 (1891)年	1080× 1182	総津東組の人々が奉納
10	御幣	明治27 (1894)年	810× 630	
11	歌仙絵馬	明治43 (1910)年・ 大正3 (1914)年	未計測	三十六歌仙を描き、その和歌を記した絵馬。35枚が現存する。奉納は、明治43年のものと大正3年のものがある。

金毘羅神社（総津・三島神社境内）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	小栗判官	明治24 (1891)年	1092× 1780	小栗判官とは、説教節等の民間の語り物に登場する主人公の名。後に、浄瑠璃や歌舞伎の題材ともなった。ここで描かれているのは物語の前半部分で、小栗が見事に鬼鹿毛を乗りこなす場面。画面左下が照手姫、左上が横山大膳、その右が大膳の息子三郎であろう。
2	日露戦争・ 旅順攻撃図	明治40 (1907)年	998× 1465	日露戦争の戦闘場面が描かれている。No.4の絵馬と法量、画題、奉納者が同一であることから、一対で奉納されたものであろう。
3	熊谷直実と 平敦盛	文久元 (1861)年	600× 806	『平家物語』等に記されている逸話である。一の谷の合戦において、義経のもとで平家を攻めた直実は、波打ち際で平家の公達の敦盛を組み敷くが、息子と同年代の若武者であったため一旦は助けようとする。しかし、味方が近づいてきたため、やむなく敦盛を討った。この出来事がきっかけとなり、直実は出家した……というものである。絵馬にもしばしば描かれる題材である。
4	日露戦争・ 旅順への攻撃	明治40 (1907)年	1066× 1522	日露戦争の激戦地となった旅順の堡壘・東鶏冠山での攻防を描く。旅順は清国・遼東半島にある港で、当時は清からロシアに租借され、ロシア軍が要塞を築いていた。日本軍は旅順へ総攻撃を行うが、その際22連隊が攻撃したのが東鶏冠山堡壘であった。日本軍は4回目の総攻撃でようやく東鶏冠山堡壘を制圧した。
5	日清戦争・ 平壤への攻撃	明治28 (1895)年	600× 910	日清戦争の平壤での戦闘場面が描かれている。No.6の絵馬と法量、画題、奉納者が同一であることから、一対で奉納されたものであろう。
6	日清戦争・ 九連城への攻撃	明治28 (1895)年	600× 910	日清戦争の九連城での戦闘場面が描かれている。九連城とは、朝鮮と清の国境を流れる鴨緑江を渡った先に設けられた清軍の要塞である。平壤の戦闘に勝利した日本軍は、10月24日鴨緑江渡河作戦を開始し、国境を越えた後、同月26日には九連城を占領した。
7	能の絵馬	元治元 (1864)年	1097× 1520	この絵馬を描いた絵師の英信とは、大洲藩家老大橋刑部重国(しげかた)(英信)と思われる。英信は65歳で隠居し、文養斎(後凋斎)と号し五郎村に隠居して、茶道・陶芸・絵画などを楽しんだ。絵は大洲藩藩絵師若宮養徳に学んだ。明治3(1870)年没(『大洲市誌』)。製作年は、英信の没年と銘文の「甲子」という干支から、元治元(1864)年と考えられる。なお、総津村の庄屋城戸三郎の名も銘文に記されている。
8	金太郎	文久2 (1862)年	904× 636	童謡や昔話のみならず、五月人形や金太郎飴等、金太郎は今日でも広く親しまれている。金太郎は、平安中期、源頼光の四天王の一人として活躍し、酒呑童子退治にも同行したと伝えられる坂田金時の幼名である。

多居谷三島神社（多居谷）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	楠正成 桜井の別れ	明治24 (1891)年	2030× 1280	南北朝期の武将楠正成の、桜井の別れの場面を描く。兵庫湊川の合戦に赴く正成が、長男正行に教訓を垂れ、摂津の桜井駅から本拠地の河内に帰らせて再起の時を期待させたというものである。
2	歌舞伎図	明治24 (1891)年 か	1301× 1900	芝居の一場面を描いたものと思われる。「加藤寅之〔 〕」という人名が人物の横に描かれており、これは加藤清正の芝居上での役名「加藤虎之助」と思われるので、加藤虎之助が登場する芝居の一場面であろう。

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
3	伊賀越の仇討ち	明治24 (1891)年	1277× 1910	「伊賀越えのあだ討ち」とは、寛永7(1630)年の仇討ちの実話から題材をとった芝居である。後世には、歌舞伎や浄瑠璃のみならず、講談や時代劇などで取り上げられ、「忠臣蔵」「曾我兄弟」と並んで、日本三大あだ討ちと言われた。足利家の家臣和田志津馬が剣客の唐木政右衛門の助太刀を得て、仇討ちを遂げるまでの物語。
4	甲冑図	記載なし	550× 900	
5	朝鮮征伐の 神功皇后と 武内宿禰	記載なし	1373× 1920	「古事記」「日本書紀」等に記されている神功皇后の三韓征伐を描く。武内宿禰は神功皇后に仕えた重臣で、皇后とともに新羅出兵の神託を聞いたとされる。また、海上での戦いの際は、潮の干満を操る珠を用いて相手方の戦艦を翻弄し、勝利をもたらしたと伝えられる。
6	日露戦争・ 金州南山攻撃の 図	記載なし	1214× 179	日露戦争における南山攻撃の場面。南山とは、日露戦争(明治37～38[1904～05]年)の舞台になった遼東半島の最もくびれた部分である。半島の先端には、ロシア軍の要塞・旅順があった。よって、旅順を孤立させるため、南山への攻撃(明治37年5月26日)が行われた。
7	ロシア兵との 戦い?	記載なし	735× 545	
8	楠正成	明治33 (1900)年	920× 900	衣装に正成の家紋である菊水紋が描かれており、南北朝期に南朝方で活躍した楠正成と知れる。正成は天皇に忠誠を尽くした忠臣として知られるためか、明治期以降の絵馬に多く登場する。息子正行との桜井の別れの場面も絵馬によく描かれる題材の一つである。
9	加藤清正の 虎退治	明治20 (1887)年	805× 913	加藤清正は豊臣秀吉に仕えた武将で、江戸幕府開府後は、熊本を治めた。秀吉と柴田勝家が戦った賤ヶ岳の合戦では、賤ヶ岳の七本槍の一人に数えられる。また朝鮮出兵の際は、虎を退治したという逸話でも知られる。
10	三十六歌仙絵馬			三十六歌仙の肖像と和歌が記された絵馬。32点が現存する。

玉森三島神社 (玉谷)

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	武将図	記載なし	550× 946	
2	芝居絵馬	記載なし	97×75	
3	歌仙図	記載なし		三十六歌仙の肖像と和歌が記された絵馬。33点が現存する。
4	熊谷直実と 平敦盛	記載なし	52× 785	熊谷直実と平敦盛については、金毘羅神社のNo.3の解説を参照。
5	松山城と 二十二連隊	明治36 (1903)年	625× 450	松山城と二十二連隊が描かれている。この構図の絵馬は、新田八幡神社(内子町)、伊方八幡神社(伊方町)、厳島神社(今治市)等に現存する。奉納年代は、いずれも日清戦争後～明治30年代である。連隊に所属する兵士が郷里の神社に奉納したのであろう。構図もほぼ同じであり、ある程度既製品化・量産されたと思われる。

伊雑神社（篠谷）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	日章旗 (浮き彫り)	明治36 (1903)年	60×69	
2	歌仙絵	記載なし		三十六歌仙の肖像と和歌が記された絵馬。26点が現存する。

中野川天満神社（中野川）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	山中鹿之介と 品川大膳の 一騎打ち	明治21 (1888)年 6月	1345× 1950	戦国期の武将尼子氏に仕えた山中鹿之介と、彼と一騎打ちした毛利方の武将品川大膳を描く。画面右下に描かれた三日月の前立てに鹿の角の脇立てがついた兜は、鹿之介が兄から譲り受けたもの。鹿之介は、主家である尼子氏の勢力回復を祈念し「我に七難八苦を与えたまえ」と誓ったと伝えられる。戦前は国語の読本などにも掲載された有名な武将の一人である。
2	加藤清正と従者	記載なし	1350× 1955	山を仰ぎ見る、馬上の加藤清正と従者を描く。清正是、彼のシンボルである烏帽子型兜を被り、片鎌槍を持つ。1, 2は額の形態、法量がほぼ同一であるので、同時期の奉納であろう。拝殿内には、明治20年の「当社社殿寄附連名」と翌21年の「御神輿新築寄附連名記」の2枚の奉納額があるので、社殿の建造を記念しての絵馬奉納ということも考えられる。
3	絵本太功記 十段目 尼崎の段	明治10年代	600× 477	明智光秀の謀反・本能寺の変から題材をとった浄瑠璃や芝居の演目の一つ。武智光秀(明智光秀)が暴君織田春長(織田信長)に追い込まれ、止むを得ず逆賊となっていく、という視点をとっている。十段目は「太十(たいじゅう)」と呼ばれるほど著名な段である。光秀の息子十次郎と別れを惜しむ許婚初菊を描く。
4	天井絵			拝殿部分に124枚、向拝部分に35枚、計159枚の天井絵が現存する。天井絵は、花鳥図や、縁起のよい富士山、宝珠などの吉祥文が描かれることが多い。天満神社の天井絵にもそのような図は多く見られるが、他の神社に比べて人物画が多いように思われる。人物画で画題が判明しているものでは、「韓信の股くぐり」や「依藤太の百足退治」「大江山の鬼退治」などがある。これらはいずれも、絵馬にもよく描かれる題材である。

宇佐八幡宮（高市切砂地区）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	奥州安達原 三段目 袖萩祭文の段	明治33 (1900)年	1029× 1563	浄瑠璃物の芝居での人気の演目「奥州安達原」の三段目。前九年の役(平安時代に奥州で起こった反乱)や奥州安達が原の鬼女伝説から題材をとったもの。
2	屋島合戦	明治33 (1900)年	1052× 1561	源平合戦のうち、屋島の合戦の那須与一の扇的、義経の八艘飛び、悪源太景清の一騎打ちなどの名場面を、一枚の絵馬の中に描いたもの。

小堂（通称お薬師様）（総津川口地区）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	蛸(小絵馬)	記載なし	253× 308	小絵馬は、県内にはほとんど現存せず、その構図も参拝図、礼拝図と呼ばれる人物が寺社にお参りしている図がほとんどである。本資料は、吹き出物が治るように願う際の蛸の絵馬であるが、この絵馬は県内では他には中島町で確認されたのみである。貴重な事例といえる。

日倉天神宮（高市石野地区）

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	賤ヶ岳の合戦	不明	981× 1336	賤ヶ岳の合戦については、三島神社(総津)のNo.4,5を参照。
2	神功皇后と 武内宿禰	不明	980× 1335	神功皇后と武内宿禰については、高市三島神社のNo.5を参照。 日倉天神宮の二点の絵馬は大きさもほぼ同一、絵の描写も酷似しており、一対で奉納されたことも考えられる。

高森三島神社（高市） 1～4は神輿蔵に収蔵。5～は拝殿内に掛かる。

No.	画題	年代	法量(mm)	備考
1	仮名手本忠臣蔵・ 討ち入り	要確認	1670× 2100	画面中の人物の名前に「大星力」の名前があるため、歴史上の事件としての忠臣蔵ではなく、芝居の「仮名手本忠臣蔵」を描いていることがわかる。画面は、吉良邸の門を打ち破る場面、屋根に登り襲撃を始めようとする場面、邸内での戦闘の場面の三つの場面に絵馬の画面を分割して描いている。
2	忠臣蔵討ち入り	記載なし	1286× 1828	年号は不明だが、顔料の色から江戸時代後期開国前の製作と思われる。No.1と同じ忠臣蔵討ち入りの場面だが、No.1は討ち入りする義士を中心に描いている。一方、ここでは、討ち入りされて慌てふためく吉良邸の人々の描写に重点が置かれている。
3	橋上の俵藤太 (たわらとうた)	不明	901× 1001	俵藤太は平安時代の東国の武将。ここでは、近江国瀬田の湖の竜神の頼みで、三上山の大百足を討ったという伝説から、藤太が橋上で弓をつがえる様子を描いている。
4	長祿・寛正の 内訌	記載なし	1007× 1181	室町幕府の管領であった斯波氏の義敏と義廉の家督争い。この家督争いは、応仁の乱の一因ともされる。
5	神功皇后と 武内宿禰	明治24 (1891)年	1270× 1693	伝説上の人物、神功皇后と武内宿禰を描く。武内宿禰は、神功皇后の息子・応神天皇を抱えている。この画題の絵馬は江戸時代末期から見られるが、特に明治期に描かれたものが残る。村内の日倉天神宮にも1点あり、内子町内の旧小田町域にも4点現存する。
6	皇居を出発する 明治天皇	明治39 (1906)年	1330× 1870	日露戦争が終結し、明治38年11月に、明治天皇が伊勢神宮へ「平和克服」の報告のために参拝した。この絵馬は、明治39年という年代と、馬車が城から出て行くという構図から、明治天皇が皇居を出発する際を描いたものと思われる。
7	唐人画	記載なし	1592× 1288	
8	岩見重太郎	大正～ 昭和初期か	870× 1047	松の幹を持つのが岩見重太郎、鉄棒を持って対するのが塙団右衛門である。二人で力比べをしたが、勝負がつかず後日の再勝負を誓ったと、地元では言い伝えられている。岩見重太郎は、大坂の陣で大坂方で奮戦の後戦死したと伝えられる武将だが、その生涯は不明な点も多く、伝説上の人物ではないとも言われる。講談などでは、父の仇を討つため諸国を巡り、その際に多くの武勇を発揮した。ついに仇とめぐり合った重太郎は、塙団右衛門らの助太刀を得て、あだ討ちを果たしたという。
9	白馬図	不明	1275× 1944	
10	日露戦争・ 旅順攻撃図	明治39 (1906)年	1288× 1830	日露戦争の激戦地となった旅順での攻防を描いたもの。旅順は遼東半島にある港で、日清・日露両戦争の舞台となったが、この絵馬の年代から日露戦争での戦闘を描いたものであろう。同じ画題で、かつ構図も酷似している絵馬が、内子町の三島神社(大平)、(白杵)に各一点奉納されている。

※『広田地区の文化財』より転載、一部修正



金毘羅神社 能の絵馬



高森三島神社 仮名手本忠臣蔵



総森三島神社 酒呑童子



総津川口 お堂 (小絵馬)



多居谷三島神社 歌舞伎絵馬



中野川天満神社 天井絵

樹木一覽表

単位(m)

樹木名	所在地他	根周り	胸高幹周	樹高	備考
いちょう	常盤木神社	3.55	6.00	36.00	
もがし	八倉集会所	12.00	3.50	15.00	
柏の木	熊野神社	6.70	2.90	20.30	
むく	麻生	5.80	4.00	11.00	
けやき	高森三島神社(西側)		5.89	20.50	
けやき	高森三島神社(東側)		3.70	24.60	
むく	仙波分校跡地		5.01	27.00	
小米桜 (エドヒガン)	千人塚(高市)		2.17	20.00	4本株立て内、 最大数値
かし	円通寺	3.55	3.50	14.50	
七丈	三島神社	2.70	2.30	20.30	
くす	〃	3.10	2.60	24.70	
えのみ	〃	3.15	2.50	22.60	
かし	〃	3.05	3.00	21.90	
七丈	理正院	2.50	2.10	14.00	
かし	宮内天満宮	4.70	2.70	18.70	
桜	〃	1.30	0.90	11.10	
むく	大宮八幡宮	4.50	3.00	21.70	
くす	〃	3.00	2.60	23.00	
くす	〃	4.70	4.00	23.00	
いちょう	〃	3.70	3.60	22.50	
えのみ	〃	5.50	4.10	27.00	
いちょう	坪内家(川中)	4.10	4.10	33.00	
くす	〃	7.00	6.90	31.60	
まき	個人宅(千里)	2.60	2.50	15.00	
桜	個人宅(大平)	2.40	2.40	12.00	
やぶ椿	三島神社(大平)	1.50	1.40	13.00	
むく	大平集会所	9.00	8.00	35.00	
いちょう	麻生小(玄関北)	2.00	1.70	8.80	
いちょう	麻生小(玄関南)	2.25	2.00	9.40	

埋蔵文化財包蔵地一覽表

台帳番号	遺跡名称	所在地名称	種別	時代	現況	遺構・遺物 (遺物等の所在地・保管者)	備考
1	千里城跡	川登3353, 3354 (千里)	城館跡	南北朝	山林	曲輪・土塁・堀切・井戸・ 陶器・土師器	
2	通谷池窯跡	宮内 (通谷池南東)	生産遺跡	古墳	畑	須恵器・円筒埴輪 (町教委)	
3	通谷池Ⅰ遺跡	宮内1480-2 (通谷池)	散布地	弥生	池沼・ 山林	弥生土器	
4	通谷池Ⅱ遺跡	宮内1480-2 (通谷池)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
5	通谷山Ⅰ遺跡	宮内(通谷山)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
6	通谷山Ⅱ遺跡	宮内(通谷山)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
7	宮内Ⅰ遺跡	川井(スルス)	散布地	弥生・ 古墳	田・宅地	弥生土器・須恵器・土師器	
8	宮内Ⅱ遺跡	宮内(山並団地)	散布地	弥生・ 古墳	宅地	弥生土器・須恵器・石鏃	
9	供養堂遺跡	宮内(供養堂)	散布地	古墳	宅地	須恵器	
10	頭ノ向遺跡	川井(頭ノ向)	散布地	弥生	宅地・田	弥生土器	
11	通谷口遺跡	宮内(大畑)	散布地	弥生・ 古墳	宅地・ 道路	弥生土器・須恵器	
12	上原町西山遺跡	原町(西山)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
13	大下田縄文遺跡	上原町(大下田)	散布地	縄文	公園	縄文土器・石鏃	
14	大下田弥生遺跡	上原町(大下田)	散布地	弥生	公園	弥生土器	
15	大下田西遺跡	上原町(大下田)	散布地	弥生	宅地・畑	弥生土器	
16	南ヶ丘Ⅰ遺跡	原町(南ヶ丘)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
17	南ヶ丘Ⅱ遺跡	原町(南ヶ丘北)	散布地	弥生	宅地・畑	弥生土器・石鏃	
18	三角遺跡	三角	散布地	弥生～ 近世	宅地・畑	弥生土器・石器・須恵器・ 中近世土師器・中国製陶器 (県教委・町教委)	
19	下原町遺跡	原町(下原町)	散布地	弥生	宅地	弥生土器・石器	
20	高尾田遺跡	高尾田(稗田)	散布地	弥生	宅地・畑	弥生土器	
21	土壇原Ⅱ遺跡	高尾田(土壇原) 上野団地	集落跡	縄文～ 古墳	宅地	縄文土器(県教委)	
22	麻生小学校南遺跡	高尾田・麻生	散布地	縄文～ 近代	畑・宅地	縄文土器・弥生土器・ 須恵器・石器・土師器 (県教委・町教委)	
23	麻生小学校遺跡	高尾田	散布地	縄文～ 古墳	学校・ 宅地	縄文土器・弥生土器・ 須恵器(県教委・町教委)	
24	拾町遺跡	麻生(蔵ヶ谷)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
25	円通寺遺跡	重光(円通寺)	散布地	弥生	畑	弥生土器・石器	
26	田ノ浦Ⅰ遺跡	田ノ浦	散布地	弥生	畑	弥生土器・石器・石剣	
27	田ノ浦Ⅱ遺跡	田ノ浦	散布地	弥生	畑	弥生土器	
28	砥部八倉山遺跡	八倉	散布地	弥生	畑	弥生土器・石鏃	
29	砥部八倉遺跡	八倉	散布地	弥生	畑	弥生土器	

台帳 番号	遺跡名称	所在地名称	種 別	時 代	現 況	遺構・遺物 (遺物等の所在地・保管者)	備 考
30	通谷池古墳群	宮内1519外 (通谷)	古墳	古墳	公園	横穴式石室・須恵器・鉄釘・ 円筒埴輪(県教委)	
31	通谷山古墳群	宮内(通谷)	古墳	古墳	畑	横穴式石室・須恵器・鉄器 (町教委)	
32	大下田1号墳 (大下田古墳群)	上原町257 (大下田)	古墳	古墳	公園	須恵器・鉄器・耳環・玉類・ 馬具・円筒埴輪 (国立歴史民俗博物館)	
33	大下田北古墳群	原町(大下田)	古墳	古墳	公園	須恵器(愛媛大学・県教委)	
34	大下田第2号墳	上原町186 (大下田)	古墳	古墳	公園	須恵器・鉄器・玉類・馬具 (県教委)	
35	釈迦面山古墳群	原町827 (釈迦面山)	古墳	古墳	公園・畑	鉄器・須恵器・人骨 (県教委)	
36	土壇原古墳群	高尾田(土壇原) 一部松山市	古墳	古墳	宅地	須恵器・鏡・鉄器・土師器・ 人骨(県教委)	
37	田ノ浦古墳群	田ノ浦104外 一部伊予市	古墳	古墳	畑		
38	砥部八倉古墳群	八倉511外	古墳	古墳	畑	須恵器	
39	大谷奥遺跡	大南(大谷)	散布地	縄文	畑	敲石・石器(愛媛大学)	
40	大下田南古墳群	宮内及び上原町 の一部 (動物園南側)	古墳	古墳	公園	横穴式石室・須恵器・鉄器 (県教委)	
41	大下田 A 号墳	上原町	古墳	古墳	公園	須恵質円筒埴輪	18号墳 (元0号)
42	大下田 B 号墳	上原町155	古墳	古墳	公園		14号墳
43	目先遺跡	高尾田	散布地	弥生	宅地	弥生土器・石器	
44	砥部三島神社遺跡	麻生・拾町	散布地	弥生・ 古墳	宅地・畑	弥生土器・須恵器	
45	柳瀬山窯跡	三角(柳瀬山)	生産遺跡	古墳	畑	窯壁・須恵器	
46	三角古墳群	三角344外	古墳	古墳	畑		
47	柳瀬山古墳群	原町外	古墳	古墳	畑	須恵器・鉄器・耳環・玉類 (町教委)	
48	城ノ向古墳群	上原町279外・ 川井(城ノ向)	古墳	古墳	畑・道路	須恵器・土師器・鉄器・ 耳環・玉類・装飾品 (県教委・町教委)	
49	つの谷池東遺跡	北川毛(角谷)	散布地	弥生	畑	弥生土器	
50	つの谷窯跡	北川毛(角谷)	生産遺跡	古墳	畑	窯壁・須恵器	
51	北川毛遺跡	北川毛(どんど)	散布地	縄文	畑	縄文土器	
52	(欠番)						令和元年 6月11日
53	北川毛窯跡群	北川毛461外	生産遺跡	近世～ 近代	畑	陶磁器(砥部焼)・窯道具	令和元年 6月11日
54	通谷池Ⅲ遺跡	宮内1480-2 (通谷池)外	生産遺跡・ 散布地	弥生・ 古墳	畑・池沼	窯壁・弥生土器・須恵器	
55	拾町Ⅱ遺跡	拾町	集落跡	弥生	宅地・ 道路	弥生土器・石器・線刻礫 (県教委)	

台帳 番号	遺跡名称	所在地名称	種 別	時 代	現 況	遺構・遺物 (遺物等の所在地・保管者)	備 考
56	水満田遺跡	麻生・拾町	集落跡	縄文～ 近世	畑・道路	縄文土器・弥生土器・土師器・青銅器・石器・分銅形土製品(県教委・町教委)	
57	水満田古墳群	麻生8・拾町	古墳	古墳	畑・道路	須恵器・鉄器・円筒埴輪・耳環・玉類(県教委)	
58	水満田西古墳群 (金毘羅山支群)	麻生425外	古墳	古墳	山林・畑	須恵器・鉄器・耳環 (県教委・町教委)	
59	長田遺跡	三角	集落跡・ 墳墓	縄文・ 弥生	畑・道路	縄文土器・弥生土器・石器 (県教委)	
60	長田古墳群	原町221外	古墳	古墳	道路	須恵器・土師器・鉄器・ 耳環・装飾品・馬具・玉類 (県教委)	
61	城ノ向遺跡	上原町(城ノ向)	集落跡	縄文・ 弥生	道路	縄文土器・弥生土器・石器・ 陰形土製品(県教委)	
62	宮内大畑遺跡	宮内(大畑)	集落跡・ 古墳	縄文～ 古墳	道路	縄文土器・弥生土器・石器・ 耳環・玉類・鉄器(県教委)	
63	土壇原Ⅰ遺跡	高尾田(土壇原) 上野団地	散布地	古墳	宅地	須恵器・土師器・鉄器 (県教委)	
64	土壇原Ⅲ遺跡	高尾田(土壇原) 上野団地	散布地	古墳	宅地	縄文土器・弥生土器・鉄器 (県教委)	
65	土壇原Ⅳ遺跡	高尾田(土壇原) 上野団地	散布地	縄文～ 中世	宅地	縄文土器・土師器(県教委)	
66	通谷池第4号窯跡	宮内1556,1573	生産遺跡	奈良	雑種地	窯体・灰原・物原・須恵器 (町教委)	
67	千足第1号窯跡	千足 (町総合公園内)	生産遺跡	奈良	公園	窯体・須恵器・土師器 (町教委)	
68	重光古墳	重光	古墳	古墳	畑	横穴式石室・須恵器・鉄器 (町教委)	
69	麻生城跡	拾町409	城館跡	中世	畑		
70	要害城跡	大南3274	城館跡	中世	山林	曲輪	
71	大戸城跡	宮内1955	城館跡	中世	山林	曲輪・土塁・堀切・帯曲輪	
72	堰山城跡	上原町267	城館跡	中世	山林		
73	八倉城跡	八倉	城館跡	中世	山林		
74	岩谷城跡	岩谷口207-1	城館跡	中世	山林		
75	坂面山(八倉山) 城跡	重光520	城館跡	中世	山林		
76	千人塚	総津2310 (桜休場)	墳墓	室町	畑		旧広田村 1
77	立花城跡	総津381(馬場)	城館跡	室町	山林	曲輪・堀切・腰曲輪	旧広田村 2
78	北川毛A窯跡	北川毛 1336,1337 の一部	生産遺跡	近世～ 近代	竹藪	陶磁器(砥部焼)・窯道具	令和元年 6月11日